

図書館サポーターズだより

明日に吹く風

楽しい春休みももう少しで終わり、新年度も目前となりました。何も用事のない日があったら、本を片手にのんびりと一日を過ごしてみたいはいかがでしょうか？今年度最後のサポーターズだよりです。

～図書館サポーター推薦図書～

『大人の語彙力ノート：誰からも「できる！」と思われる』：
齋藤 孝 著（814 || Sa25）

現代を生きる私たちは、メールや SNS を使う機会が大変多くなってきています。そんな時、同じ言葉の繰り返しになってしまったり、つい「すごい」「上手」などを多用して言葉が足りないと感じたりすることはありませんか？私も、「やばい」「かわいい」をよく使ってしまいます。素晴らしいモノを褒めたいのに語彙力がなくて子どもっぽくなってしまったりと感じて本書を手にとってみました。実際に読んでみると今まで知らなかった美しい日本語の数々を知ることが出来ました。特に、「同じ言葉の繰り返しをなくす」ノート編ではつい多用してしまう言葉の言い換えが載っているので即戦力間違いなし！社会人として正しい言葉遣いを身につけるためにも、学生時代に是非読んでいただきたい一冊です。 (M・S)

『五つ星をつけてよ』：奥田 亜希子 著（913.6 || 054）

みなさんは季節の移り際に、ふと悲しくなったり寂しくなったりする時はありませんか？この本はそんな時にピッタリなお話が詰まっています。私たちが生きていくうえで人間関係はずっと続いていくものです。人と接する上で誤解が生まれ複雑になってしまったり、愛する人から裏切られてしまったり…。読んでいくなかでいかりや悲しさを多く感じる本ですが、お話の最後にはモヤモヤしていた気持ちが消え「ホッとする」「心が温まる」内容になっています。この本は短編集で読みやすく、誰でも一度は経験したことのあるような場面が多く描かれている作品です。春の陽だまりの中でゆっくり読んでみたいはいかがでしょうか。 (R・Y)

『ゾンビ学』：岡本 健 著（361.5 || 042）

この世はゾンビであふれている。民間信仰から広まった「ゾンビ」は今日、映画やテレビドラマ、マンガやゲーム、アニメといった「ゾンビ・コンテンツ」として形を変え、世界中で「感染」が拡大中だ。現代のゾンビは、もはや「生ける屍、ゾンビ」という存在に何の違和感も覚えないほど様々なメディアを通して私たちの日常に浸透してきているのだ。ではなぜ私たちはゾンビの魅力に「感染」してしまうのだろうか。そもそも「ゾンビ」とは何者なのだろうか。死体が何らかの原因で起き上がり、人に襲い掛かる存在であるゾンビがここまで私たちを魅了するのは何故なのか。そのような疑問に学問として真正面から向き合うのが「ゾンビ学」だ。本書は古今東西のあらゆる「ゾンビ」を網羅し、様々な視点からメスを入れている。ゾンビを愛してやまない人にはうってつけの一冊だ。 (Y・Y)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。